

## 【特別講演要旨】

### 「県農試における病害診断について」

築尾嘉章（富山県農林水産総合技術センター農業研究所 病理昆虫課）

縁があって定年退職後、富山県農試で約 8 年病害診断を中心に過ごしてきた。当初は持ち込み病害を診断して当該普及員に口頭で連絡する形であったが書類として残す方向に舵を切った。現在は各病害ごとに A4 版 1 枚にまとめたものを PDF 化して普及員に戻している。これらのファイルをまとめて水稻育苗期の障害編、畑作物病害編、野菜病害編、花卉病害編を CD に焼いて県内普及センターに配布した。2017 年以降 5 年間の診断件数は延べ 614 件、内訳は水稻 116 件、畑作物 82 件、野菜 268 件、花き 128 件で、水稻育苗期の病害としてはもみ枯細菌病、ピシウム苗立枯病、ばか苗病が大半を占める。水稻成熟期でももみ枯細菌病の比率が高い。野菜ではネギ、キャベツ、トマト、タマネギ、イチゴ、ニンジンという順番。ネギ、タマネギでは *Fusarium* による乾腐病、萎凋病が最も多い。トマトでも萎凋病が多い。キャベツでは黒すす病と根朽病が多い。北陸の野菜・花卉作では元々降水量の多い土地柄で、排水の悪い水田転換畑で作付けされることから土壌伝染性病害が非常に多い。また露地栽培の比率が高いため旧来から知られる病害の発生が目立つ。逆にウイルス性病害は少ない。同定の基本は培地への分離作業になる。これにより思わぬ新病害が発見される。ダイズ黒根腐病に病徴が酷似する褐色根腐病 *Neocosmospora vasinfectans* が代表例。ニンジンの新疫病（*Phytophthora porri*）、シャクヤク根腐病（*Phialophora* sp.）と株腐病（*Fusarium solani*）も他病害と混同されていたきらいがある。問題は、本来業務がある正規職員にとって副業的に行うには作業量が多すぎることである。また分類同定作業は経験を必要とするため中堅職員から若手職員へ技術継承することが必要だが、職員が短期間で異動してしまう昨今の事情ではこれもうまくいかないのが問題点である。

## プロフィール

築尾嘉章（ちくおよしあき）

1952 年、兵庫県生まれ、大阪府立大学大学院農学研究科修了。農林水産省北海道農試を振り出しに、野菜・茶業試験場久留米支場、富山県農技センター野菜花き試験場指定試験地主任（球根類病害）、野菜茶業試験場花き部病害研究室、（独法）花き研究所病害研究室を歴任。この間に学位取得（1988 年）。2013 年定年退職。以降、富山県農林水産総合技術センター病理昆虫課で病害診断に携わる。専門は植物病理学 糸状菌の分類・同定。北陸との縁は指定試験地主任から。全国農村教育協会刊行の防除ハンドブックシリーズの編集。花（2006）、トマト・ナス・ピーマン（2007）、キュウリ・スイカ・メロン（2007）、豆類（2008）、ネギ類（2011）、リンゴ（2012）アブラナ科野菜（2014）、イチゴ（2014）、カンキツ（2014）、日本ナシ（2014）、カキ（2015）ジャガイモ（2016）、ブドウ（2017）、サツマイモ（2021）。植物防疫特別増刊号「疫病」（2015）編集委員長及び執筆 「疫病」事始め 1、疫病菌の選択培地、23-27 疫病菌とピシウム菌 類似点と相違点 28-44 疫病 Q & A 疫病菌基礎の基礎 54-58 主要作物の病害の発生と防除 6 花卉・野草 日本植物病理学 100 年史 病理学会報 81 巻特別号 212-217（2015）